

## ホームドア設置にかかる総合的な対策を加速することを求める意見書

今年8月、盲導犬を連れた目の不自由な男性が、東京都内の地下鉄の駅ホームから転落し電車にはねられて死亡した事故が起こった。視覚障がい者にとって駅ホームは「欄干のない橋」に例えられる。

2011年に日本盲人会連合が行ったアンケート調査では、約4割の視覚障がい者がホームからの転落経験があり、約6割が転落しそうになったとの結果が出ている。転落防止策として有効なのは、ホームドアやホーム柵の設置である。国土交通省の検討会も「視覚障害者の転落を防止するための設備として非常に効果が高く」と整備促進の重要性を説く報告を中間とりまとめとして行っている(2011年)。東京メトロ丸の内線では、全駅にホームドアを設置してから転落事故はゼロになった。

全国に約9500ある駅のうち、ホームドア設置駅はわずか665駅であり、国交省が2020年を目標に優先設置を求めている10万人以上が利用する約250駅では、3割程度の77駅にとどまっている(2016年3月現在)。一方、一般の人も含めたホーム転落件数は2009年の2442件が2014年に3673件へと増加している。費用負担の大きさが設置の遅れの原因となっているが、危険な事故を防ぐためにもホームドアを設置することが急がれる。

よって、町田市議会は、政府に対し、ホームドア設置にかかる予算措置、技術開発支援など総合的な対策を加速することを求めるものである。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。